

I C T 学習教材コンテンツ活用実践事例

		学校名	県立むつ養護	学校
授業について	教科領域名 (✓又は■で記入する。)	<input type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 算数・数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 外国語・外国語活動 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作・美術 <input type="checkbox"/> 体育・保健体育 <input type="checkbox"/> 技術・家庭 / 職業・家庭 / 職業 / 家庭 <input type="checkbox"/> 特別の教科 道徳 <input type="checkbox"/> 総合的な学習（探究）の時間 <input type="checkbox"/> 日常生活の指導 <input type="checkbox"/> 生活単元学習 <input checked="" type="checkbox"/> 作業学習 <input type="checkbox"/> 遊びの指導 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> その他（ ）		
	単元(題材)名	野菜作りの作業内容を共有しよう		
	単元(題材)の目標	・実務の様子、作物の様子を記録し、振り返り時に活用、次へつなげる		
学習集団と実態	学部・学年・人数	高等部	1・2・3	年 12 人
	本単元(題材)における学習集団の主な実態	<ul style="list-style-type: none"> ・高等部1年～3年生10名で、重複が1年2名、2年1名のメンバーである。 ・基本教師生徒とも全員で作業に当たり、重複学級の生徒には、教師がサポートしつつ作業に従事している。 ・その日の従事内容は、多くても3項目程度とし開始前と終了時日誌に記入、目標を明示して終了後に反省する。 ・作業従事中は生徒自身、自分の行動に集中しており、振り返り時に自分を客観視するまで至らないのが問題点と考えていた。 		
I C T 活用について	使用した支援機器・教材の名称	iPad プロジェクター		
	使用したアプリケーションの名称	Clips、Keynote、カメラ (iPad 標準実装) Google classroom、Google Drive		
	主な活用の用途 (✓又は■で記入する。)	(複数選択可能) <input type="checkbox"/> コミュニケーション支援 (<input type="checkbox"/> 意思伝達支援 <input type="checkbox"/> 遠隔コミュニケーション支援) <input type="checkbox"/> 活動支援 (<input type="checkbox"/> 情報入手支援 <input type="checkbox"/> 機器操作支援 <input type="checkbox"/> 時間支援) <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 (<input type="checkbox"/> 教科学習支援 <input type="checkbox"/> 認知発達支援 <input checked="" type="checkbox"/> 社会生活支援) <input checked="" type="checkbox"/> 実態把握支援		
I C T 活用のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・写真や動画を撮影、編集しプレゼン形式にまとめることで、作業時の自分の様子を客観的に判断し、次の行動に向けての自己目標設定や効率性向上への考え方の指導へつなげる。 ・タブレットは撮影、編集、視聴と1台でできるため、時間や場所、機材を特に気に掛けることが少ない。また、クラウド上でデータを共有することで、複数人がそれぞれの端末で作業できる利点を理解させる。 			
活用の状況と支援	<ul style="list-style-type: none"> ○活用場面 <ul style="list-style-type: none"> ・実務作業（水まき、農具使用の様子等）や作物の成長段階の記録（生育状況、花、収穫物等） ○行った支援 <ul style="list-style-type: none"> ・画面に収めたい場面、機器の角度や動画の長さなどを実際の撮影時に実務指導した。 ○生徒の様子・変容 <ul style="list-style-type: none"> ・撮影時は、何を撮影すればよいのかが分からない生徒には、事前に参考動画を視聴させイメージを持たせた。また、編集など個人のスキルの差があるので、生徒それぞれに求める内容がある程度分類した上で到達目標を明確にした。自分が何をすればいいかを明確にしたことで、完成形をイメージできた分、作業過程にアレンジを加える生徒も出るなど、主体的に取り組むことができた。 			

